

仕入マーケットから見る

商いは厳しいです。厳しいからマーケットが成り立ち、切磋琢磨が行われているのだと思います。その市場ルールの掟『世界中で一番高く買って、世界中で一番安いから商いが成立する。』は、全ての関係者に容赦ない試練を与えます。

何で服部新聞の冒頭からこんな難しい話をするのかを具体的に説明させて下さい。それは最近の無垢材の供給側マーケットの状況を見れば少しは理解出来ると思ったからです。

服部商店の取り扱っている広葉樹を説明させて下さい。ロシア材がワシントン条約条項3に該当されたのは昨年です。そしてその影響が徐々に広がりを見せています。特にロシア材のナラ材は完全に品不足になっています。タモも同様先々品薄状態に陥ると思いますが、ここではナラ材をご説明させていただきます。

ナラ材の本当の良質産地は1番が北海道。2番目が中国吉林省。3番目が中国黒竜江省。4番目がロシアです。

最初に北海道のナラ材の状況をご説明致します。北海道の森林のなかでは、民有林なら王子製紙・日本製紙等の製紙工場が持っている山が有るのですが、良質材は殆ど伐りつくした状況です。残っているのはそれ以外の民有林と国有林と市町村林です。一部の材に良質材は残っていますが殆どが目の荒い非常に狂い易い材ばかりです。その目の荒い材も3年前から比べると単価は倍になっています。

中国は一昨年黒竜江省の森林で大規模な伐採制限が実施されました。今年から吉林省も実施されます。又4～5年ほど前から原木の輸出制限処置を実施しています。そして加えて伐採制限を実施するのだから、当然中国国内で製材した板の入荷も日本に入ってこなくなる状況ですが、一部の中国シッパーの材は少ないですが日本に輸入されています。4月末に北海道に出かけた時見て来ました。しかしタモ材は有りましたがナラ材は有りませんでした。中国の真実とはこんな、いい加減な国なのです。

又日本の大手建材メーカーは、非常に厳格なコンプライアンスを実施しているので使用材に違法性が有れば使えません。と言う事は中国材が違法伐採の可能性が有る材だと考えるのが正しい判断だと思います。材質は日本産に負けませんし、日本産より上かも知れませんが中国材を使用することは、法律違反を起こしたことになるのです。

そしてロシア材の事になるのですが、ナラ・タモがワシントン条約に該当したのですが、これも先々の事は全く解りません。と言う事はコンプライアンスが完全に確立しているのか、そうでないのか、全く現時点では解りません。と言うのは4月末に北海道で中国の輸入材のタモ材を小生が見てきたお話をしましたが、この製材品の原木の産地はロシアです。材の色合いから見ると間違いなくロシア産ですが、日本と同じように正規の許可を取って伐採された原木を中国シッパーが輸入し、それを製材して日本に輸出した材だと言う証拠はないのです。ロシア政府は西の端のモスクワに有ります。ロシア材の産地は沿海州です。余りに距離が離れすぎていて本当に正規の伐採許可を正しく許可を守るシッパーに与えられるのかは、まだまだ不透明だと思います。

ロシア材のナラ材は一昨年、ワシントン条約云々と言われる前から日本に輸入される量が減りかけてきていました。昨年は多分一昨年の半以下だと思います。そして今年は昨年の3分の1以下だと思います。こんな状況ですから当然価格は高騰し完全に品不足に陥るのです。次のページに北海道旭川にて開催されている銘木市に出品されているロシア材の2年分の比較表を掲載しています。

銘木市に出品されている量は、北海道の大手製材工場が1年間に必要としている量からすると大きな数字では有りませんが、ナラ材等のロシア材の動向を見る尺度になると思います。この数字を見れば服部新聞で小生が現在行動している状況『アメリカ材の直接買い付け量を増やす取り組み』の事が手に取るように解ると思います。こんな数字まで上げることは、服部商店の行いを同業他社にも見せる結果になり、ライバルのヒントになることは想定していますが、ここをオープンにする事に意味が有ると思います。

旭川林産協同組合が開催しています。各市のロシア材の出品内容の比較表

	ナラ原木	タモ原木		ナラ原木	タモ原木
平成27年4月	16本	102本	平成26年4月	5本	165本
平成27年3月	0本	0本	平成26年3月	44本	96本
平成27年2月	65本	10本	平成26年2月	40本	216本
平成27年1月	3本	5本	平成26年1月	100本	90本
平成26年12月	0本	155本	平成25年12月	1本	40本
平成26年11月	0本	42本	平成25年11月	50本	114本
平成26年10月	0本	0本	平成25年10月	10本	13本
平成26年9月	0本	0本	平成25年9月	2本	10本
平成26年6月	64本	16本	平成25年6月	12本	6本
合計	148本	330本	合計	264本	750本

上の数字を見て皆様にナラ材の大きな価格変動を見て、今少しでも多く在庫を持つくらい購入する事が正しいですと、言っているのでは有りません。ナラ材のお引き合いが有れば、是非服部商店の在庫を活用してください。と言う事は商いなので当たり前です。こんな記事は新聞に馴染みません。小生が思っていることを下記に書きます。

- 1、過去に同じように暴騰した樹種が有りますが、余りに上がりすぎ使用量が大幅に減り価格が下がった。
- 2、大幅な価格変動が、流通の要の商社・問屋・材木屋の地盤低下につながり、入手が困難になった。
- 3、大幅な値上がりは、樹種変更につながる。
- 4、大幅な値上がりは、樹種だけでなく仕様の変更につながる。木を使わない住まい作り等につながる。
- 5、扱い業者が減りすぎると、他の問題『例えば運送のリスクが発生する。運べるトラックの減少が運賃高騰だけでなくその商い其の物が無くなる』が起きる可能性が増大する。
- 6、流通量の激減が資金ショートにつながる。1回の買い付け金額が増える事で仕入れ時期が重なり資金繰りの悪化に結びつく。
- 7、1回の失敗が取り戻せない。安定的に入手出来ない事は、安定的に供給出来ない事に直結する。

1～7まで色んなリスクを書きましたが、書ききれないほど有ると思います。ここからは服部商店の過去に行ったこと、現在の事、将来の事を書きます。

小生の会社は主にカツラ材の碁盤材を主体に扱ってきたために人工乾燥を好みませんでした。理由はカツラの赤みは人工乾燥に不向きだからです。しかしカツラ材の枯渇で商い樹種の変更を余儀なくされてブラックウオールナット原木を8年前から自家工場で製材を始めました。当時は外注の人工乾燥機が有ったのでそこをお願いしてきましたが、3年前に廃業し、弊社も人工乾燥機を導入せざるをえなくなりました。そして良質材の入手が困難になってきた事で、在庫に穴が空いてきた。一部のサイズが品薄状態になることで、より一層人工乾燥機が必要となり現在はフルに1年中回しています。

しかし乾燥機は乾燥の短縮を図ってくれるだけであって、抜本的な方針変更になりません。当然抜本の変更が必要となります。カツラ材がないので、有る樹種を扱わなければなりません。当然服部商店は広葉樹が主体なので量的に豊富なナラ材は一つの選択種になりそれを少しづつ増やして来ました。しかし上記の表の様になれば、ナラ材に変わる材と同様の材を扱うことこそ、本当に消費者の為のサプライヤーになれる事だと思います。

そこで昨年12月にアメリカでホワイトオーク原木を買い付けてきました。そしてアメリカ材の本当の事を知り今年の3月に直でアメリカンブラックウオールナット・ブラックチェリー・レッドオークを買い付けて来ました。次のシーズン11月～3月に最低2回は買い付けに行こうと計画しています。

ホワイトオークの製材は終わりましたが、乾燥もひと工夫を施そうと思っています。今年の秋口に服部商店完全オリジナルのホワイトオーク製材品を皆様に使っていただこうと考えています。



昨年12月に買い付けしたアメリカ土場



3月下旬に港から服部商店迄横持ち



ホワイトオーク製材時



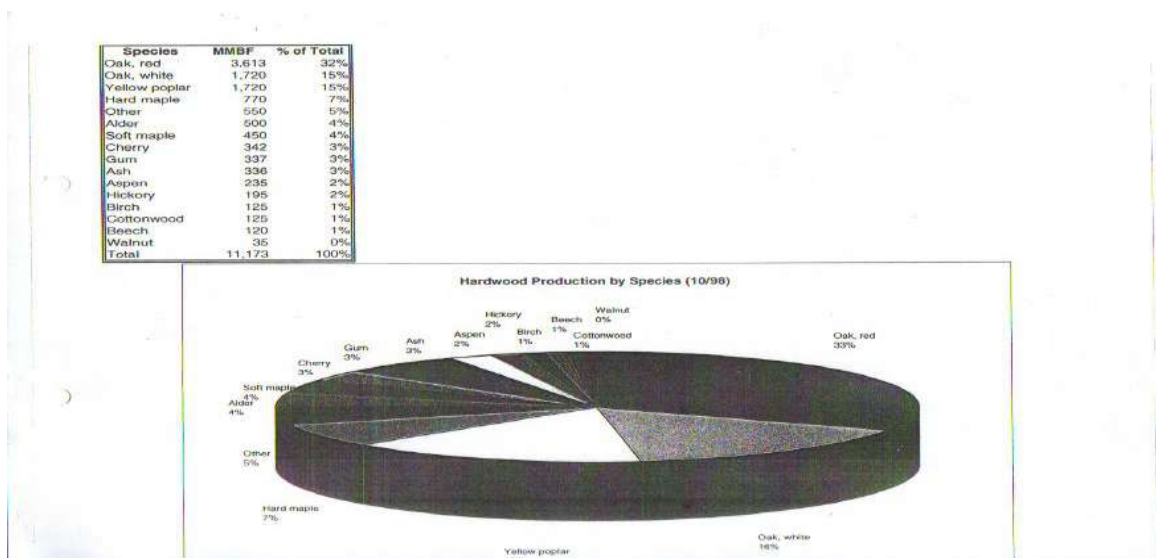
栈干ししたホワイトオーク製材品

買い付けに出かけたのが昨年12月中旬です。日本に入荷したのが今年の3月下旬です。製材が全て完了したのが4月上旬です。5か月も掛っています。今回製材したサイズで比較的薄い板（34ミリ以下）は9月の中旬に人工乾燥機に入れ、皆様には是非購入して頂きたいと思います。

今月号の服部新聞を読んで頂いている方だけに超お得情報をホワイトオーク製材品の中で12・18ミリの柀目のショート材を出来たら8月中旬に販売したいと思っていますので、ブログのチェックを。

ホワイトオークはナラ材の代用として使っていただけると考えるのか、それともそうでないのかの判断はユーザー様に託したいと思います。小生のホワイトオークをここまで手掛ける以前の判断は、ナラはナラとしてお使い頂き、ホワイトオークはホワイトオークしてお使い頂く事だと思っていました。服部新聞を書いている最中も同様に考えていますが、どちらの樹種もお使い頂くからには、最高の物作りをお手伝いできる最高品質の製材品に仕上げます。

ところで、ナラ・ホワイトオーク2種類だけの判断だけで本当に良いのでしょうか。ページ下に少し古いですがアメリカ広葉樹製材品の生産内訳の表を添付致します。そこにアメリカ産広葉樹の仲間が一番豊富な樹種がレッドオークと唄っています。確かにレッドオークは産地によりホワイトオーク以上に値段・品質等様々です。北～南まで幅広く分布していますと、聞いています。そのレッドオークを手掛けないのは手落ちではないでしょうか。



5月下旬に3月に買いつけたレッドオーク原木が入荷します。製材サイズは角材から色んな板まで幅広い用途に対応出来る製材品を作る予定です。



成田からミネアポリスに出かけました。 北部のレッドオークをサンプル（10M3）買付け
レッドオークはホワイトオーク以上に様々な顔をしています。赤い色・比較的白い赤色・大径原木・細い原木等色んな特徴が有ります。育ちより氏が大事と言う木材の格言が最も合う樹種かも知れません。ホワイトオークとの最大の違いは、最もポピュラーな使い方が出来るか否かが決め手です。ナラの親戚はホワイトオークです。理由はお酒作りに両方とも向いている樹種だからです。しかしレッドオークはお酒作りには向いていません。と言う事はレッドオークその物をナラ・ホワイトオークとの単純な比較をしてはいけないと言うイメージだと思います。

小生が購入してきたレッドオークは北部の産地です。比較的白い色合いです。ただし大きな太さの原木は無いです。アメリカ南部地区のレッドオークは径が1メートル近くの大径原木は多数有りますが、その色は日本人が好む美しい赤ではなく、少しどす黒い赤だと聞いています。

レッドオークの特徴はホワイトオークの様には、表面ワレを起こす可能性は低いです。特に大径原木で巾広のカウンターを製材する場合、南部のレッドオークなら表面ワレを起こす可能性は低ですが、日本人が好むナラ色では有りませんが、南部に来シーズン以降行くチャンスが有れば向学の為に一度は見てみたいと思います。次のシーズン絶対にロシア産のナラ材が下がらないとは言いきれません。今の所為替変動（大幅な円高）が無い限り下がらないと思いますので、来シーズンは積極的にレッドオークに取り組む予定です。

アンケートのご報告

先月号の服部新聞のご購読者様のアンケートに大多数のお返事を頂きましてありがとうございます。100通近いお返事にありがたく思うと同時に、今後の取り組みに一層身が引き締まる思いです。そのアンケートの中に様々なご意見が有りました。取り分け多かったのが、小生の将来予測です。確かに目指している小生の思いは、本当の情報正しく正確に伝える事ですが、商いを営んでいると、ある意味仮説を立てて、事を進める必要が有るのは事実です。それは現在生産されている木材の受給動向をどう思うか、どうやって、今後取り組んで行くのかと言う話になると思います。しかし小生は占い師でもなければ予言師でも有りません。目指しているのは、英語表記ではART ISMです。PROFESSIONALでは有りません。商いだけならプロで良いと思いますが、大げさに言えば大阪の岸和田市に木材の好きな人間が一人でもいる事が、本当に必要だと思っていただける事だと思っています。これからも精進して頑張っていきたいとおもっています。励ましのお手紙ありがとうございます。

